

高解像度衛星画像解析システムの活用

事業期間（平成12年度～）

平成24年度予算額271百万円（平成23年度予算額274百万円）

警察庁情報通信局
情報通信企画課通信運用室
03-3581-0141
（内線6086）

事業の内容

○ 目的

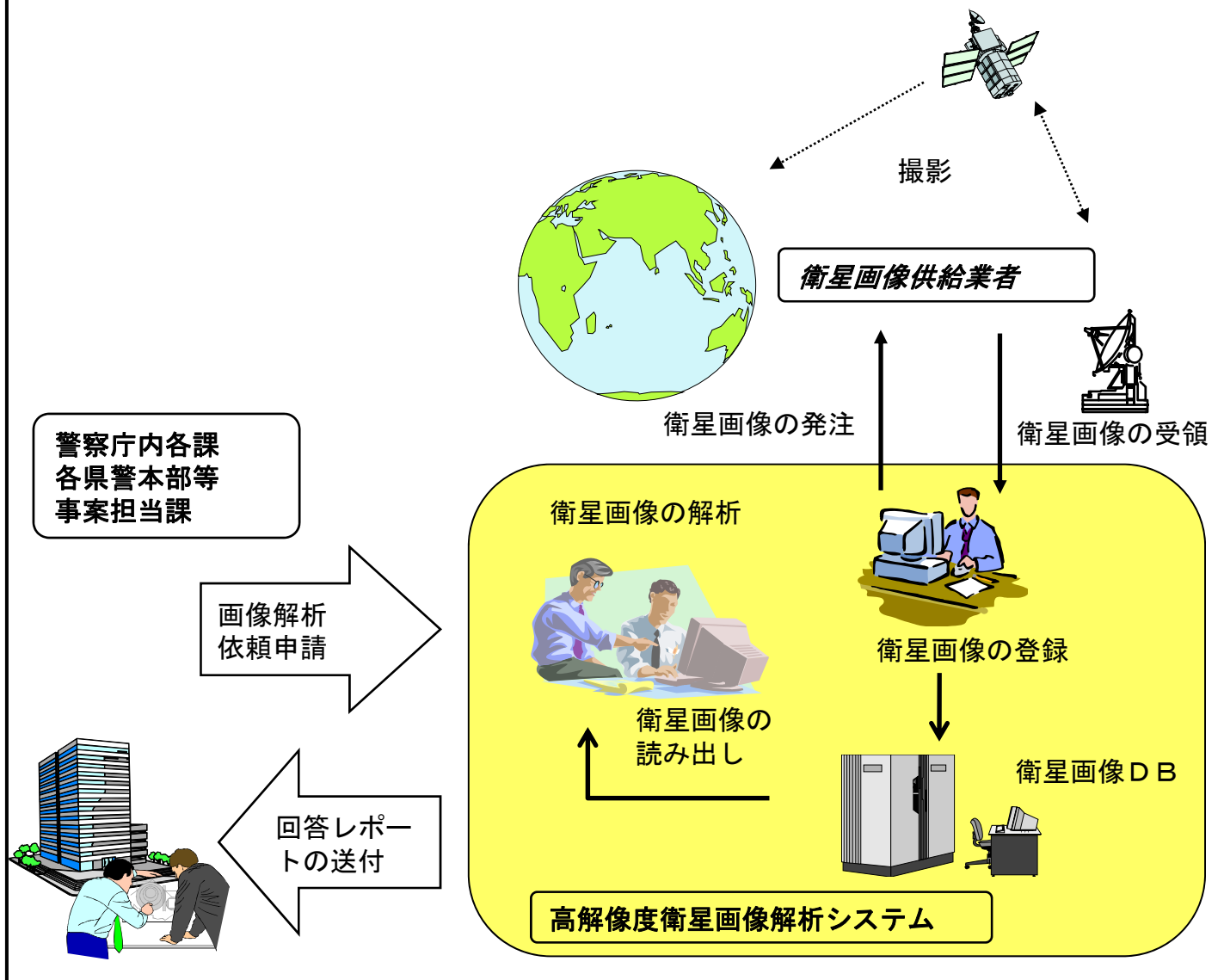
衛星画像データを各種警察活動に活用します。

○ 事業内容

衛星画像供給業者より購入した衛星画像を、高解像度衛星画像解析システムを用いて解析し、各種警察活動に活用します。

東日本大震災においては、被災前後の衛星画像について、鮮明化したり道路位置情報を付加するなどの画像処理を施し、被災状況の把握等に活用しました。

事業イメージ



通信衛星の使用

平成24年度予算額471百万円（平成23年度予算額469百万円）

警察庁情報通信局
情報通信企画課通信運用室
03-3581-0141
（内線6086）

事業の内容

○ 目的

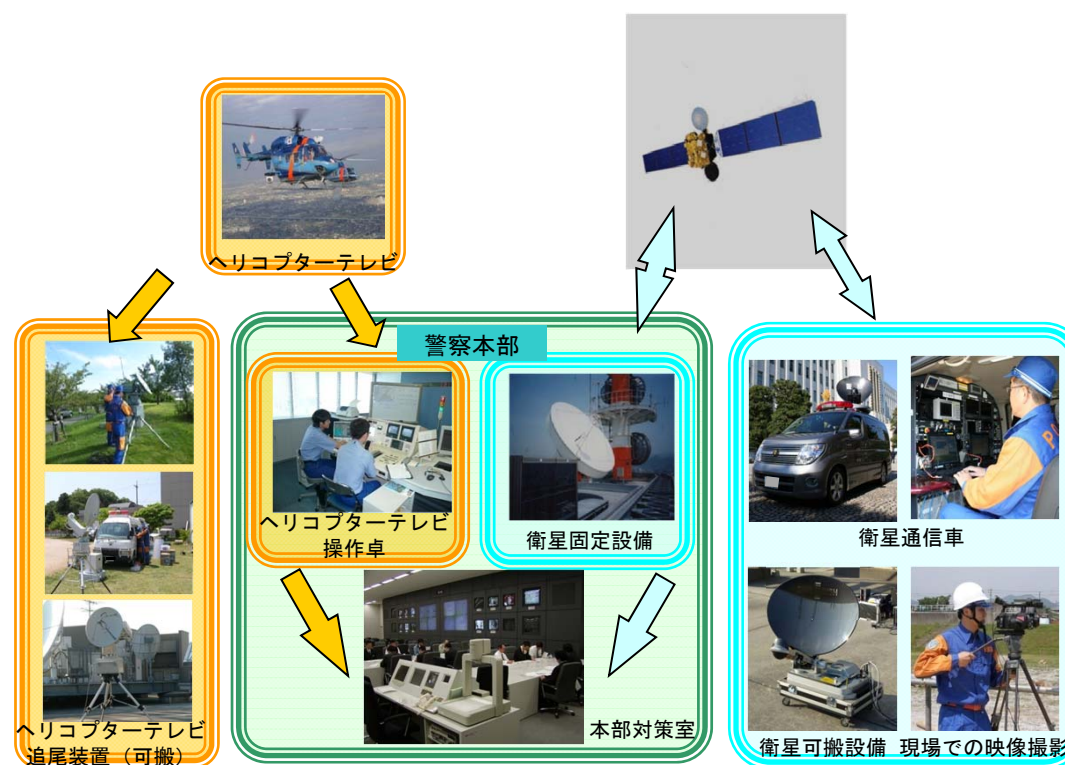
通信衛星の中継器を使用して伝送した現場映像等を各種警察活動に活用します。

○ 事業内容

警察では、大規模な事故や災害が発生した場合は、現場の状況を的確に把握するため、現場の映像やヘリコプターテレビシステムにより撮影された現場上空からの映像を、衛星通信車や衛星可搬設備を利用して、関係警察本部、警察庁等に伝送しています。また、これらの映像は、首相官邸にも伝送することが可能であり、政府の初動対応にも役立てられています。こうした設備は、デジタルハイビジョン化されており、高精細な現場の映像情報を確実に取得伝送し、よりの確に現場状況を把握することが可能となっています。また、全国の警察本部等には衛星固定設備や衛星可搬設備を、管区警察局等には衛星通信車を整備しています。衛星通信の特徴である広域性、同報性、耐災害性を活かし、災害現場等からの映像伝送回線や臨時電話回線に利用しています。

東日本大震災においては、通信衛星を使用し、被災状況の把握、被災者の避難誘導等に必要な映像を、警察庁、首相官邸、災害警備本部等にリアルタイムで伝送しました。

事業イメージ



宇宙技術を活用した経済協力

平成24年度予算額 政府開発援助経済協力等援助費及びJICA運営費交付金の内数

外務省国際協力局
開発協力企画室
03-5501-8363

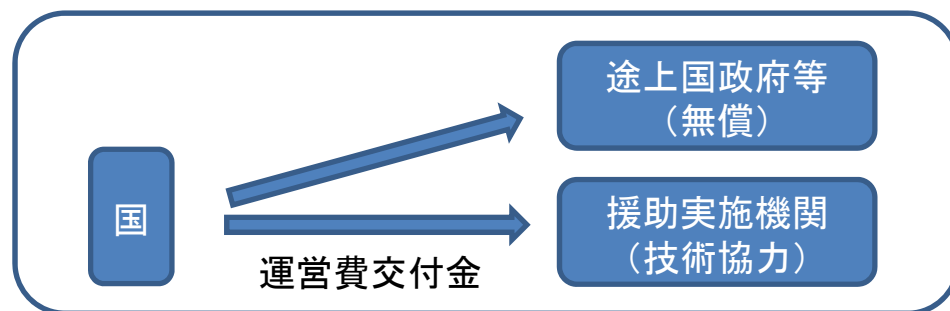
事業の内容

事業の概要・目的

○防災、気候変動等のグローバルな課題への貢献について、衛星データの利用や通信網の整備等の宇宙技術を開発課題の解決に有効なツールの一つとして活用し、森林資源の持続的な活用や自然災害の軽減等、途上国の経済・社会開発に資することを目的として事業を実施しています。

○ODA事業（無償資金協力、技術協力）において、ODA大綱との整合性に留意しつつ、衛星データの利用や通信網の整備等の宇宙技術を主に右の分野の協力を活用しています（事業イメージは過去の実績の代表例）。

条件（対象者、対象行為、補助率等）



事業イメージ

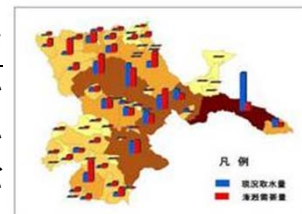
○森林・自然環境

アマゾン森林保全・違法伐採のためのALOS衛星画像の利用プロジェクト（技術協力、ブラジル）：衛星データの解析による森林資源減少状況の把握と炭素量の推計及び衛星データによる泥炭地火災の早期発見を行いました。協力期間2009年6月～2012年6月。



○水資源開発

セフィールドルード川流域総合水資源管理調査（技術協力、イラン）：衛星画像をベースに季別・農作物別の土地利用図を作成し、作物の単位用水量の算出等ができるよう技術的協議・指導を実施しました。協力期間2007年7月～2010年1月。



○防災

モウルビバザール気象レーダー設置計画（無償資金協力、バングラデシュ）：気象データ衛星通信システムの供与、E/N締結2007年6月。



○地図作成

ミンダナオの平和と開発のための地形図作成プロジェクト（技術協力、フィリピン）：衛星データを活用した国土基本図を作成し、併せて、地形図作成技術の技術移転による人材育成を実施します。協力期間2010年3月～2013年2月。

軌道上衛星の運用事業
事業期間（昭和63年度～（運用段階））
平成24年度予算額7,210 百万円（平成23年度予算額6,263百万円）

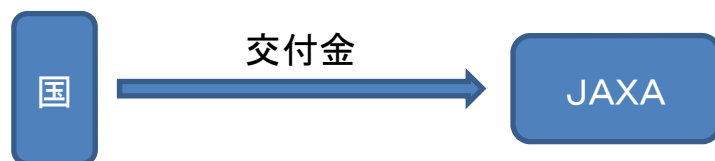
文部科学省研究開発局
宇宙開発利用課
03-6734-4153

事業の内容

事業の概要・目的

- 地球観測衛星、地球観測センサの運用を行うとともに地球観測データの蓄積、処理及び利用研究を実施します。
- 通信・測位衛星の継続運用を行うことで、移動体通信や大容量・高速のインターネット通信の利用実証、高精度な測位サービスの実証等の技術実証等を継続して行います。
- 科学衛星や探査機等の各衛星プロジェクトのミッションを確実に達成するため、運用計画を立案して衛星を着実に運用し、取得データの処理や解析を継続的に実施します。これにより、最大限の科学成果を挙げ、理工学それぞれの側面から宇宙科学研究を推進します。

条件（対象者、対象行為、補助率等）



事業イメージ

○事業内容

以下に示す衛星について、運用、データ受信、処理、提供、蓄積する地上システム運用及びデータを用いた利用研究、利用実証等を行います。

・地球観測衛星：

- ①第一期水循環変動観測衛星「しずく」(GCOM-W)
- ②温室効果ガス観測技術衛星「いぶき」(GOSAT)

・通信・測位衛星：

- ①技術試験衛星VIII型「きく8号」(ETS-VIII)
- ②超高速インターネット衛星「きずな」(WINDS)
- ③データ中継技術衛星「こだま」(DRTS)
- ④準天頂衛星初号機「みちびき」(QZS-1)（平成24年度まで運用）

・科学衛星：

- ①X線天文衛星「すざく」(ASTRO-EII)
- ②太陽観測衛星「ひので」(SOLAR-B)
- ③磁気圏観測衛星「あけぼの」(EXOS-D)
- ④磁気圏尾部観測衛星 (GEOTAIL)
- ⑤小型高機能科学衛星「れいめい」(INDEX)
- ⑥金星探査機「あかつき」(PLANET-C)は2015年以降の金星周回軌道再投入に向けた運用を継続中
- ⑦平成25年度には小型科学衛星1号機の運用も開始予定